

研究協議 事例発表

発表者 山北高等学校 PTA

テーマ 「参加したくなる PTA を目指して

～今年もたくさんの新しい出会い、つながりが生まれました～

1 はじめに

神奈川のマチュピチュと言われることから、マチュピチュの写真を用いて山北高校の説明をしようとするので会場を笑いで和ませ、学校の紹介に入りました。

学校概要のあと、山北高校ってどんなところなのか、生徒の会話を動画で流し、地域性や学校生活についての紹介をしました。



2 学校概要

昭和17年川村小学校を山北町立山北実科高等女学校として、第1期生60名で開校しました。昭和45年に現在の山北町向原に移転し今年で77年目を迎える歴史と伝統のある学校です。生徒が、校風である「着実に努力」を行い、全力で部活動や行事に取り組み、高校生活を前向きに一生懸命に過ごしています。また、豊かな自然が守る人情味溢れる山北町において、人と人の触れ合いをモットーに生徒と教師の信頼関係を大切に、日々の教育活動を行っています。平成29年、「スポーツの山北」を維持、発展させるため、「スポーツ系」を設置して次世代スポーツリーダーやスポーツを活かした職業への人材育成に取り組んでいます。

3 事例発表

PTA紹介

各委員会の説明が行われました。

(1) 学年委員会 三大イベント紹介
山高祭でのポップコーン作りと販売、

ライブイン山北でのカレー作り、
進路見学会

それぞれ生徒や近隣の方、他の委員会の方と触れ合え、楽しかったです。

(2) 広報委員会

主な仕事は学校行事の取材、撮影

高校生になると親が学校に行くことも減りますが、広報として活動することで、子供たちの学校行事をどの保護者よりも至近距離で楽しむことができ、いろんな方と知り合うことができました。

(3) ふれあい委員会

3つの主な活動

年2回の花植え、
山高祭で地元野菜や山高饅頭等の販売、
マラソン大会での豚汁作り

どの活動も子供たちや保護者とふれあいながら、「無理なく楽しく」をモットーに行っています。

(4) 成人委員会

3つの主な活動

春の登校指導

文化祭での骨密度測定

PTA 会員対象の社会見学の実施

子どもたちの様子も分かり、信頼できる仲間もでき、充実した3年間になっています。

(5) 「参加したくなる PTA を目指して」

卒業する3年生の保護者が「抽選で仕方なくPTA をやることになったけど、やって良かった、本当に楽しい3年間でした。」と発言。どうして参加したくないと思うのか、PTA の楽しさを分かってもらうにはどうしたら良いか？ アンケートを実施しました。

アンケート1. 小・中・高でPTA の経験がありますか？

83%がありと回答。

アンケート2 過去に参加してどのように感じましたか？

多くの人と知り合えた、子どもの様子が分かった、楽しかったの声の反面、時間的な負担が多かった、義務感が強いなどの課題もありました。

アンケート3

山北高校のPTA活動に参加してどうでしたか？
やっていくうちに、学年が上がるにつれ、楽しくなっていくという声が多数ありました。

では参加できない理由は何ですか？

仕事の休みが不定期で時間を取るのが難しい。委員会の内容が分からない。の回答がありました。

アンケート4 子どもたちに関する地域ボランティアに参加したいですか？

58%が参加してみたいと回答しました。

任期については3年の縛りがきつい、1年ならやれる。この地区のほとんどの高校が3年任期にしているとの声もありました。

案内誌班

面談でよくある風景として、保護者にプリントや案内が届かない問題を紹介しました。その環境では広報誌やPTA活動の案内も保護者が目にせず、伝わりません。

次年度から新入生の保護者にも、委員会を決める前にあらかじめ配布して入学前に理解を深められるものを作成します。本体会でその案内誌を配布しました。その他、ホームページやマチコミメールを活用します。



防災への取り組みについて

ここ数年日本各地で災害が起こっています。山北町は活断層が通る土地でもあります。この学校が被災し、避難場所になることも否定できません。備品の出し入れの際に、ふと防災備品の現状を見てしまいました。ボロボロの毛布や使えるのか分からない備品など。教員も忙しいし、いつ起こるか分からない災害に備えて、保護者でやるしかないですね。

ミッション①

防災備蓄倉庫の現状把握

湿気くさい毛布、30年以上前のレトロな備品、22

年前の防塵マスク、25年前の割りばし等。電池の在庫不安、乾燥食材は生徒分あるが、それ用の水がどこにあるかわからない。

ミッション②

防災備蓄倉庫内の選別、不要物撤去

ミッション③

適正な置き場へ移動、備蓄品の見える化

整理、処分、リスト化、定期的な補充、マニュアル化して担当が変わっても伝わるようにする。

ミッション④

今後の課題

山北が50センチの浸水の可能性がある地域である。広域避難場所としての準備が必要。今後学校と町と協議していくことが課題となりました。

小学生や中学生と違って、もう大人に近い高校生を見ていると、なんだか保護者のバックアップは不要ではないかと思いますが、今回の活動で1人1人の保護者ではできないことも保護者の力が集まると大きな力が生まれ、たくさんの改善ができました。



【助言者講評】

足柄高等学校長 笹谷 幸司

地域防災に関して、PTAの目というのが大事。また全体を通して、臨機応変にやっているところが良い。アンケートをやってみるというのもすばらしい。83%の方が小学校中学校でPTA経験ありというのは知りませんでした。県西地区はそういうところだというのが分かりました。PTAの案内誌を写真版にするというのも良かったです。防災倉庫ボランティア隊を結成するのもよく、本校でも考えてくれるかなと思います。

今日の発表は温かい発表だったが、本質についていると思います。PTA の高校編でどうやったら高校 PTA にみんなが参加してくれるかを問い直す良い発表でした。

プリント類が保護者に届かない問題ですが、日付と配ったものを書きこめて保護者にも伝わるようにしたクリアファイルを紹介します。

ボランティアの話ですが、大きな災害が起こると高校生はどうなるか。高校は校区が広く、公共機関が止まったり、渋滞が起きていたりすると、生徒は朝早くから出てきて、夜遅くに帰るという大変なことになります。学校と地域の関係が非常に大切

になります。

今回の発表は着眼点の確かさとチームワークの良さを感じられ、おそらく最後になる PTA の発表として非常に良かったです。



講演

演題 「ラグビーは 人を創る 人をはぐくむ」～スポーツ指導による人づくり～

講師 東海大学教授 木村 季由 氏 (ラグビー部監督)

1 はじめに

講師の木村季由氏は、98年より東海大学体育会ラグビーフットボール部監督を務め、これまでにリーグ戦優勝7回、大学選手権準優勝3回に導きました。また、日本ラグビーフットボール協会強化委員、コーチ委員、テクニカルスタッフ、U19・U23・日本A代表のフィットネスコーチを務められました。



2 講演内容

ラグビーについて、みなさんはどのようなイメージをお持ちでしょうか。先日、学生にも調査しましたが、ラグビーは野球やサッカーと比べて、マイナーな競技といえます。来年、日本でラグビーのワールドカップが開催されます。ラグビー競技を盛り上げていきたいと思えます。

東海大学ラグビー部は、現在180名の部員がいます。部員数が多いクラブでは、支えとなるクラブの理念が必要です。毎年、新入部員だけでなく、部員全員にクラブの理念を提示していますが、全ての部員が理解していない状況です。日常生活のあり方は、競技に直結します。何のためにそれをやるのか、それをクラブのためだと考える部員は多いのですが、それは自分のためだと教えると、部員の目の色が一瞬変わります。

チームスポーツは、個人の能力が結集したものです。そのためには日常生活が大切だと考えています。ラグビー部の合宿所は、時代に逆行して4人部屋で、各学年をバラバラに配置しています。

仲のいい人、苦手な人も含めて気づきのレベルを上げてほしいと考えています。

私は、チームとクラブを使い分けています。チームとはグラウンドの中で競技に関わる集団のことで、クラブとはグラウンドの外の環境を含めた部全体のことです。一過性の強いだけのチームではなく、永続的な良いクラブ作りを目指しています。

チームワークとは、チームの目標をよりよく達成するために協力し合う関係です。そのためには、共通の目標に向かって努力する能力、十分なコミュニケーション、互いにチームメイトを補う慣例などがが必要です。

ラグビーのゲーム運営は、リーダーが行いますので、リーダーの役割は重要です。しかし、突出したリーダーがいる場合、リーダーに依存してしまう状況が生じます。リーダーに依存しないように、リーダーに発言させない等、工夫しながらトレーニングを行っています。自分がんばらないと仲間ではいられなくなることを理解すると、成長力が加速します。人のせいにならない、仲間のためにがんばるという気持ちがあると、人の成長の変化が起きやすくなります。

自分の現状を知ることは大切です。自分の強みは何か、弱みは何か、しっかり自己評価するとともに、他者の評価を受け入れることも大切です。目標を設定する際には、期限が必要です。変化のための具体的な方法が決まったら、それを続けていく環境を整えます。それが部員だけでは困難な場合、われわれがサポートしなければなりません。

決めた目標を達成できるまで練習しようとする、練習時間がつつい長くなり、部員の集中力がなくなります。そのため、決められた時間内で練習をして、集中が切れたら練習をやめるようにしています。

目標を部員に理解させるには、時間がかかります。しかし、練習時間よりも、私は目標を理解させるミーティングに時間をかけるようにしていま

す。

一流選手は、どんな状況でも常に結果を出すために綿密な準備を行っています。99パーセントは準備です。準備のように自分でコントロールできることには時間をかけます。バスケットボール・コーチのジョン・ウッデンも「無計画は失敗の計画である」と述べています。

今期のキックオフ・ミーティングで、成長するために、「学ぶこと」、「頭を使って自ら考えること」、「考えたことを実行すること」の三つが必要だと部員に伝えました。

一人の才能がそのまま際立った成果につながるわけではありません。オール・ブラックスの規範にもあるように、「私」よりも「私たち」を優先するチーム作りを目指しています。また、勝つには才能が必要ですが、勝ち続けるには品性が必要だと思います。

部員に対して、われわれは決めたことや約束について、玉虫色の対応をしていません。決めたことや約束は、全て理由が言えるようにしています。スタッフ内では、家族のように役割分担をしています。

素直なことは大切です。人の話が聞ける選手は、長続きすると思います。人から教えてもらうように接することは大切だと思います。

人づくりには、個性を認める関係を互いに作る時間が大切です。お互いの存在を認め、行動を認め、結果を認めることが必要だと思います。また、「がたがた言わずにやれ」というような思考停止の状況を作らないようにしています。粘り強く諦めずに繰り返し働きかけています。人はひとりでは生きていけないことを理解してほしいと思います。私は部員に対して、1対180ではなく、1対1の関係で接しています。

最後に、平尾誠二さんの「人を叱る四つの心得」を紹介します。①プレーを叱っても人格を責めないこと、②叱った後にフォローすること、③他人と比較しないこと、④長時間叱らないこと、以上の四つの心得は、人づくりにきっと役立つと思います。

